

令和6年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県央会場

科目 ②子どもの生活リズムと食習慣が与える人間形成への影響

- ◆ 食習慣が子どもの心の発達、人間形成に与える影響について、多くのことを学びました。当児童クラブでも毎日おやつを提供をしています。子どもたちはおやつの時間が一番楽しいと言います。“おやつの提供は、心の発達にも重要な役割がある。”“マナーが身に付き、友達と関わることができ、情緒の安定を図ることができる”ということ学びました。これからも、毎日のおやつの時間を和やかな雰囲気支援していきたいと思えます。
- ◆ 子どもの食について、この数年、子どもたちの食に対する関心の薄れを感じており、また、同時に、マナー面での不安も大きくなっているように見えます。

食事を通した子どもたちの心の発達には、大人のどんな手伝い・手助けが必要か、または、子ども同士のどんな関わりが必要かを考えながら、子どもにとっても職員にとっても、学びと成長の機会となるよう働きかけていきたいです。
- ◆ 映像で見た食事の場面で「拾ってくれたの誰？」という先生の問いかけがとても印象的でしたし、日頃の子どもへの声かけに活かせるヒントになりました。学童でも子どもたちにおやつや昼食を食べてもらうのですが、マナーをお話ししながら、子どもたちに楽しく食事の時間を過ごしてもらえるように工夫していきたいです。
- ◆ 学童でのおやつ時間といえば、立っている子どもや、ながら食べる子どもを注意していることが多いです。また、汚い言葉を聞いて気分を害する子もいるため、その言葉を言わないよう声かけもしています。マナー習得のためですが、おやつの時間は楽しくかけがえのないものであってほしいです。しっかり心に響く伝え方をし、みんなが和やかに楽しめる雰囲気作りを心がけていきたいです。また、大人も一緒に楽しみ、食満足度を高めてあげることで、心身共に健やかに過ごしてほしいと思いました。
- ◆ 食べる速さ、好き嫌い、マナー等には家庭での食満足度や生活リズム、学校での他者との関わり、価値観に触れてきた経験による様々な背景があります。児童にとって何が必要なのかよく見て声かけをしたいと思いました。

また、アメリカの食事場面で食べるか食べないかの選択肢があることに驚きました。栄養面において、こんなにも日本は管理されているということを知りませんでした。一方で、アメリカのように自分で主張することの大切さを伝えるということも、今の時代には必要だと感じました。